

圏外のアンテナ

[多肉植物]の巻

仕事で時々コンビを組むデザイナーのMちゃんは、「いきもの係に向かない女子」の1人である。

引っ越し祝いに、皆で観葉植物をプレゼントすると、あっという間に枯らしてしまった。金色のメダカを飼いはじめた時も、翌月には水槽セットごと消えていた。

親切で世話焼き。なのに、なぜ？ 多分、必要以上に構いすぎてしまうのだ。

そんなMちゃんと、半年ぶりにカフェで再会。どうしてた？ と聞くと、答えは「タニク」。自粛の間、本気で多肉植物にハマっていたという。

「多肉ってネイルに似てるの。土の中からきれいな色の爪がムクムク生えてくると、もう可愛いくて！」

これが新しい子、と差し出すスマホの写真を見ると、プリプリした葉の先が透けて、キラキラ光っている。

「アフリカ生まれの、ブルビネ・メセンブリアンテモイデスっていう子で。透明な葉に、空なんか映りこむと、もう神秘的で！」

え、セメント？ マンモス？ 迫力あるね。

「多肉はどの子も、名前まですてきな。めっちゃ可愛い！」

驚いた。いきものを育てることだけが泣きどころだったMちゃんが、しばらく見ぬ間に、最強のバージョンアップをとげていた。

ところで、一緒にサボテン食べたことなかった？

ふいに思い出したのは、バブル華やかな頃、都心のメキシコ料理店で、お皿が隠れるほど巨大なサボテンステーキに喰らいついたことである。

冬瓜のような歯触りと、たっぷりめのスパイス。あの頃は多肉なんて呼んでなかったし、たしかMちゃんも、可愛い～じゃなくて、おいしい～って叫んでいたよね。と、ここまで思い出して、自然に笑いがこみあげてきた。

同じ多肉植物でも、ガッツリおいしいサボテンステーキから、めっちゃ可愛いマンモスなんかへ…。

バブル世代。肉食女子の旅は、どこまでつづく？

=2020年10月23日掲載=

